

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：34420

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K20732

研究課題名(和文) 家族支援の構造化と家族支援コンピテンシー尺度開発に関する研究

研究課題名(英文) Concepts and a Structural Framework for Family Nursing Competencies and Scale development of competencies in family nursing

研究代表者

西元 康世(Nishimoto, Yasuyo)

四天王寺大学・看護学部・講師

研究者番号：60458015

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：家族も含めて看護する家族看護・家族支援へのニーズは高い。家族支援において、高い成果を出すためにも、家族支援コンピテンシーの概念を明らかにし、それを評価することができる尺度は非常に有用である。本研究では、家族支援で高い成果を出すためのコンピテンシーとは何かを明らかにした上で家族支援コンピテンシー尺度を開発することを目的に研究を実施した。家族支援コンピテンシーとは、家族支援を行うための基盤となる「基盤コンピテンシー」、家族支援の手段として発揮される「実践コンピテンシー」、家族支援によるアウトカムを明確化する「ビジョンコンピテンシー」からなり、これらを盛り込んだ家族支援コンピテンシー尺度が作成された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護職が、多様な家族に対応し、家族それぞれの求める成果へ導くためには、エビデンスに基づいた家族支援を行う必要がある。しかし、家族支援とはどのようなことが実践されて成果が発揮できたといえるのか、家族支援は何を行っていることなのかなどは看護分野においてもコンセンサスが得られているとは言い難い。看護職として必要な家族支援実践能力を明らかにし、系統だった家族支援を推進する人材を育成することは家族支援の質の向上のために不可欠で、本研究で作成された「家族支援コンピテンシー尺度」は家族支援を行う看護職の教育や、個人が日々の実践を振り返るための指針としても非常に有用なツールとなる。

研究成果の概要(英文)：There is a great demand for family nursing in Japan.

In order to achieve high results in family nursing, we considered that the concept of family nursing competency was very useful and a scale that could evaluate it. The purpose of this study was to clarify the competencies for achieving high results in family nursing and to develop the Family Nursing Competency Scale: FNCS.

The Family Support Competency consisted of the “Fundamental Competency” that is the basis for family support, the “Practical Competency” that is demonstrated as a means of family support, and the “Vision Competency” that clarifies the outcomes of family nursing. The Family Nursing Competency Scale was created.

研究分野：家族看護

キーワード：家族支援コンピテンシー 家族支援 家族看護 尺度開発 家族支援専門看護師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護職が看護を提供する患者には、多くの場合に家族が存在し、家族も含めて看護する家族支援が必要とされている。わが国では、在宅医療の推進が進み、その背景には、要介護状態になっても自宅や家族のいる住み慣れた環境でできるだけ長く過ごしたいという国民のニーズが示されている¹⁾ように、一般的に家族は、個人にとって大きな存在意義があり、患者のみに焦点をあてるだけでなく、家族も含めた家族支援を実践することは急務である。さらに、近年、少子化、超高齢化、非婚化・晩婚化など時代背景の影響を受け、家族の多様化は如実に現れている。看護職が、その家族差²⁾に対応し、家族それぞれの求める成果へ導くためには、エビデンスに基づいた家族支援を行い、看護職として必要な家族支援実践能力を明らかにし、系統だった家族支援を推進する人材を育成することは不可欠である。

1970年代後半に、北米において家族システムユニットを対象とする家族看護学が提唱され、世界各国に広がり、わが国でも看護学の専門分野のひとつとして確立した家族看護学は体系化した学問体系を備える一方、家族看護学が目指す家族支援の内容や家族支援実践能力・家族支援コンピテンシーについての研究は進んでいるとは言い難い。

家族看護学が目指す家族支援を実践家として主導するのが、日本看護協会が認定する家族支援専門看護師である。2008年に3人が誕生し、2019年には70人³⁾が登録されており、病院などで活躍中である。家族支援専門看護師は、「患者の回復を促進するために家族を支援する。患者を含む家族本来のセルフケア機能を高め、主体的に問題解決できるよう身体的、精神的、社会的に支援し、水準の高い看護を提供する。」ことをその分野の特徴とする³⁾専門看護師であり、家族支援において卓越した実践能力を発揮できるスペシャリストである。家族支援専門看護師を養成する教育課程は、2020年7月現在、6大学院が日本看護系大学協議会にて認定されている。

このように家族支援の必要性が高まり、そのニーズに応えるべくして家族支援専門看護師が誕生して12年が経過するが、家族支援という専門分野における家族支援実践能力とはどのようなものであるのかは、今もなお明らかになっていない。看護実践能力の評価や人材育成において、近年、コンピテンシー⁴⁾の概念が導入されている。コンピテンシーの定義は研究者によって多少違いはあるものの、ある職務または状況に対し、基準に照らして効果的、あるいは卓越した業績を生む原因として関わっている個人の根源的特性であり、具体的には、動因、特性、自己概念、知識、スキルである(Spencer & Spencer, 1993)とされている。わが国では、1990年代後半から企業における人材管理として導入され、看護分野においても国内外において高度実践看護師のコアコンピテンシー⁶⁾や日本語版 APN のコアコンピテンシー案⁵⁾、国際看護協会による APN の能力⁵⁾ WHO グローバルコンピテンシーモデル⁷⁾など、様々なコンピテンシー概念が開発されている。しかし、家族支援コンピテンシーに関しては、まだ存在せず、早期の開発が望まれる。

2. 研究の目的

わが国において実践されている家族支援、家族支援コンピテンシーの概念を構造化し、家族支援コンピテンシー尺度を開発することが本研究全体の目的である。上記構想を達成するために、下記の3つの相からなる研究を実施した。

1) 家族支援、家族支援コンピテンシーの概念化

既存の文献から、家族支援、家族支援コンピテンシーの概念分析を行った。

2) 家族支援コンピテンシー尺度案の作成

家族支援専門看護師へのインタビューを実施し、1)の文献検討による概念分析の結果と統合し、家族支援コンピテンシーを構造化し、家族支援コンピテンシー尺度案を作成した。

3) 家族支援コンピテンシー尺度の信頼性と妥当性の検討

家族支援コンピテンシー尺度を作成し、尺度の信頼性と妥当性を検証するために質問紙調査を実施した。

3. 研究の方法

1) 家族支援、家族支援コンピテンシーの概念化：既存文献による概念分析

わが国における家族看護、家族支援の実践について書かれた論文に関する文献検討を実施した。同様に家族支援コンピテンシーについても文献検討を実施し、概念を明確化した。概念分析に用いる方法としては、実践の現場でどのように使用されているのかを明らかにする手法であるハイブリッドモデル⁸⁾を用いて理論的段階として分析を実施した。分析時には、真実性の確保のために、当該専門分野の研究者複数名によって検討を実施した。

2) 家族支援コンピテンシーの尺度案の作成：家族支援専門看護師へのインタビュー調査

1)で明らかにされた家族支援、家族支援コンピテンシーの概念を参考にインタビューガイドを作成し、家族支援専門看護師10名を対象とした半構造化面接調査を実施した。実施の際、コンピテンシーを調査することに長けていると言われる「Behavioral Event Interview (行動観察面接)」の手法を取り入れた。対象は、コンピテンシーを明らかにするためには、成果を出すことができている対象がふさわしいと言われているため、家族支援専門看護師とした。インタビューは、大学の倫理審査を受審し、承認を受けた上で実施し、インタビュー実施の際には、対象者に研究目的、意義、倫理的配慮などについて文書を用いて説明し、同意書に署名いただくことで、同意を得た。インタビュー内容は概念を明確化するハイブリッドモデルのフィールドワーク相として分析した。

3) 家族支援コンピテンシー尺度の信頼性、妥当性の検証

家族支援コンピテンシー尺度案の作成と質問紙による予備調査

3の2)までに構造化した概念を当該専門分野の研究者、実践家で検討し、家族支援コンピテンシー尺度のアイテムプールを作成し、項目精選を実施した。フェイスシートは、27年度に実施した文献検討においてピックアップした家族支援コンピテンシーに影響すると考えられる因子や対象者の属性(性別や年齢など)を参考に作成した。家族支援コンピテンシー尺度案は、家族支援を実施している病院などに協力を得て、看護職10名程度に予備調査を実施した。予備調査実施後、その結果を踏まえて、再度項目精選などの検討を行い、家族支援コンピテンシー尺度を作成した。

家族支援コンピテンシー尺度の作成と質問紙による本調査

最終年度であるため、下記の内容を実施予定であったが、COVID-19の影響などもあり、遅延した。科研費助成期間外となる調査は、今後責任をもって下記のように実施する。で完成した家族支援コンピテンシー尺度の信頼性と妥当性を検証するために質問紙調査を実施する。対象者は、家族支援専門看護約50名に実施する。作成した尺度と併存妥当性を測定するための尺度として、「退院支援看護師の個別支援における職務行動遂行能力評価尺度」を用いる。対象者の一部には約2週間後に再テストをしてもらえるよう手配する。対象者に研究目的、意義、倫理的配慮などについて記載された説明書を同封し、回答をもって同意を得られることとする。データはSPSS Statistics base 20, SPSS Amosなどの統計解析ソフトを用いて分析する。

4. 研究成果

1) 家族看護・家族支援、家族支援コンピテンシーの概念分析による構造化

本研究課題の家族支援コンピテンシー尺度を開発するにあたり、はじめに家族支援(家族看護)、家族支援コンピテンシーの構造化を行うための概念分析を実施した。医中誌Web.を用いて、文献検索を実施し、190本の原著論文と家族看護学の教科書として用いられている書籍から家族支援(家族看護)の定義として記載されている箇所、家族支援コンピテンシーとして、家族支援に必要な能力が記載されている箇所を抜き出し、分析を実施した。

家族支援(家族看護)の概念分析

先行要件として、「家族における潜在的または明白な看護問題の存在」「看護職者による家族看護の必要性の認識」が明らかになった。属性としては下記の表1のような構造が明らかになった。

表1 家族支援(家族看護)の属性

| 家族内部環境への支援 | 家族システムユニットへの支援 | 家族外部環境システムへの支援 |
|-----------------------|----------------------|-------------------------|
| 家族成員への情緒的サポート | 家族内の関係性の調整 | 家族と家族外部環境システム間の調整 |
| 家族成員への知識と情報の提供 | 家族の役割の調整 | 家族の社会資源の活用の促進 |
| 家族成員個々の能力を發揮してもらふサポート | 家族システムユニットの問題解決能力の強化 | 家族をサポートする制度の整備とその必要性の啓発 |
| | 家族システムユニットのきずなの強化 | 家族外部環境システムへの家族との対応能力の強化 |

また、家族支援(家族看護)は、家族システムユニットのウェルビーイングと家族システムユニットが、家族成員へ良い影響をもたらすことを帰結としていた。

家族支援コンピテンシーの概念分析

家族支援コンピテンシーの先行要件、属性、帰結は図1に示す結果となった。

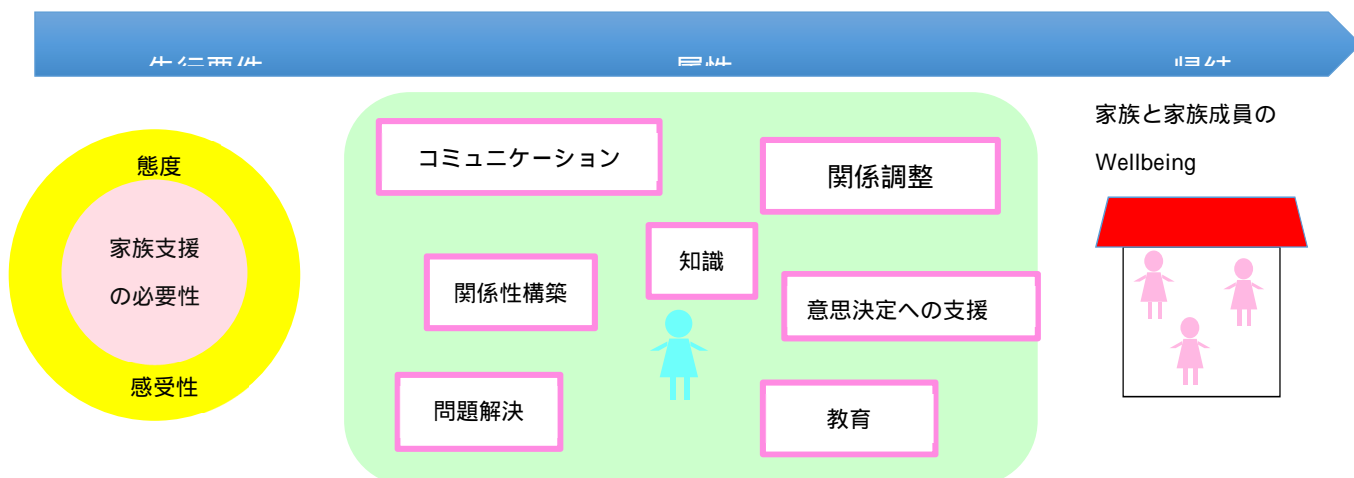


図1 家族支援コンピテンシー概念(家族支援コンピテンシーの先行要件、属性、帰結)

2) 家族支援コンピテンシー尺度案の作成：家族支援コンピテンシーに関するインタビュー調査
 2019年7月～11月に、家族支援専門看護師10名を対象とした半構造化面接調査を実施した。インタビュー内容は、成功したと感じた家族支援について（事象、どのように取り組んだか）失敗したと感じた家族支援について（事象、どのように取り組んだか）を質問し、文献検討であられた家族支援コンピテンシー概念を見た上で、該当すると考える能力などの意見を聞いた。面接時間は、約60分であった。インタビューは、個室で実施し、対象者の同意を得た上でICレーコーダに録音し、逐語録を作成した。逐語内容を熟読し、家族支援コンピテンシーの内容に当てはまると考えられる部分を抽出し、文献検討で構造化された家族支援コンピテンシーと比較した上で、カテゴリー化を実施した。結果下記の表2に示す結果となった。それらのコンピテンシーを再度見直し、カテゴリー化して家族支援コンピテンシーモデルとして表3のようにまとめた。

表2 家族支援コンピテンシーの概念

| 先行要件 | 属性 | 帰結 |
|---------------------|-----------------------|--------------|
| 家族を看護の対象とする | 家族への教育 | 家族の安定した生活 |
| 家族看護問題が存在する | 医療者への教育 | 家族の関係性が良好になる |
| 看護師が家族支援の必要性を認識する | 家族への情報提供 | 家族が尊重される |
| スタッフへのサポートの必要性を認識する | 家族間の関係調整 | 家族が力を発揮できる |
| | 家族と家族外の関係調整 | 家族の負担が減少する |
| | 多職種間（施設内）の連携調整 | 家族が状況に適應する |
| | 多職種間（施設外）の連携調整 | |
| | 家族支援に関するサービス開発 | |
| | 家族との信頼関係構築 | |
| | 家族とのコミュニケーション | |
| | 家族の意思決定支援 | |
| | 家族アセスメント | |
| | 家族の精神的サポート | |
| | 家族・家族看護・家族支援に関する知識の保有 | |

表3 家族支援コンピテンシーモデル

| 基盤コンピテンシー | 実践コンピテンシー |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 定義： 家族支援を行うための基盤となるコンピテンシー | 定義： 家族支援の手段として発揮されるコンピテンシー |
| 家族を看護の対象とする | 家族への教育 |
| 家族看護問題が存在する | 医療者への教育 |
| 看護師が家族支援の必要性を認識する | 家族への情報提供 |
| スタッフへのサポートの必要性を認識する | 家族間の関係調整 |
| 家族看護・家族支援に関する知識の保有 | 家族と家族外の関係調整 |
| | 多職種間（施設内）の連携調整 |
| | 多職種間（施設外）の連携調整 |
| | 家族支援に関するサービス開発 |
| | 家族との信頼関係構築 |
| | 家族とのコミュニケーション |
| | 家族の意思決定支援 |
| | 家族アセスメント |
| | 家族の精神的サポート |
| 定義： 家族支援によるアウトカムを明確化するコンピテンシー | |
| 家族の安定した生活 | |
| 家族の関係性が良好になる | |
| 家族が尊重される | |
| 家族が力を発揮できる | |
| 家族の負担が減少する | |
| 家族が状況に適應する | |

これらの結果から、下記の通り、項目数21の5段階のリッカートスケールの家族支援コンピテンシー尺度案を作成した。

家族支援コンピテンシー尺度（案）

| | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 家族を看護の対象とする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 家族への家族支援の必要性を認識する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 医療者への家族支援のサポートの必要性を認識する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 医療者へ家族支援に関する教育をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 家族へ家族支援の一環としての教育をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 家族へ情報提供を行う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

| | | | | | |
|-----------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 7. 家族員間の関係性の調整する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 家族と他者（親族，友人，医療者など）との関係性を調整する . . | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 家族支援に関わる多職種間（施設内）の連携を調整する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 家族支援に関わる多職種間（施設外）の連携を調整する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 家族支援のためのサービスを開発する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 家族と信頼関係を築く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 家族とのコミュニケーションを良好にとる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 家族の意思決定を支援する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. 家族を適切にアセスメントする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. 患者と家族の相互作用を考慮して家族を捉える | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 家族を精神的にサポートする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 家族の力を信じてやってみる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 家族支援に関わる組織分析をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. 家族・家族看護・家族支援に関する知識を保有する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. 家族のウェルビーイングを目指した家族支援をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

3) 家族支援コンピテンシー尺度の信頼性と妥当性の検討

家族支援コンピテンシー尺度を作成し，尺度の信頼性と妥当性を検証するために質問紙調査を実施した．予備調査として，10名の家族支援専門看護師に質問紙調査を実施した．10名中7名より回答が得られた．この結果をもとに尺度の微修正を実施した．以降も継続して研究を進めている．

5. 引用・参考文献

- 1) 在宅医療の体制構築に係る指針，厚生労働省 医政局指導課 在宅医療推進室，
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/iryuu_keikaku/dl/shiryuu_a-5.pdf 2020年7月7日
- 2) 法橋尚宏編集，新しい家族看護学：理論・実践・研究，メヂカルフレンド社，2010
- 3) 日本看護協会認定部，都道府県別専門看護師登録者数，
<https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns> 2020年7月7日
- 4) DAVID C. McCLELLAND, Testing for Competence Rather Than for "Intelligence" AMERICAN PSYCHOLOGIST, 1973
- 5) 高度実践看護師制度推進委員会(2008)高度実践看護師のコア・コンピテンシーについて-現 CNS による現在の役割認識と今後の課題，看護学教育 III 看護実践能力の育成，44-68 看護協会出版会
- 6) Ann B.Hamric.,Judith A.Spross.,Chalene M.Hanson.:A Brief History of Advanced Practice Nursing in the United States p3-32 ADVANCED PRACTICE NURSING-An Integrative Approach-FOURTH EDITION, W B Saunders Co,2008.
- 7) WHO GLOBAL COMPETENCY MODEL
https://www.who.int/employment/competencies/WHO_competencies_EN.pdf 2020年7月7日
- 8) Schwartz-Barcott, D., Kim, S. (2000). An Expansion and Elaboration of the Hybrid Model of Concept Development. In B. Rodgers, K. KnafI (Eds.), Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications. 2nd ed. (pp.129-159). Philadelphia: Saunders.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

| |
|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yasuyo Nishimoto, Naohiro Hohashi |
| 2. 発表標題 Concept Analysis of Family Nursing In Japan |
| 3. 学会等名 13th International Family Nursing Conference, Pamplona, Spain (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yasuyo Nishimoto, Naohiro Hohashi |
| 2. 発表標題 Concepts and Structures Pertaining to Family Nursing Competencies in Japan |
| 3. 学会等名 21st EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) & 11th INC (International Nursing Conference), Seoul, Korea (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yasuyo Nishimoto, Chikako Yoshioka, Naohiro Hohashi |
| 2. 発表標題 Item Selection for the Concept of Family Nursing Competencies during the Phase of Fieldwork |
| 3. 学会等名 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 法橋 尚宏 (Hohashi Naohiro) | | |